

2008 Molokai World Championships を終えて

まず、今回のチャレンジには多くの仲間の協力があった上で、成し遂げたものと思い、サポートして下さった皆様に感謝いたします。

初めてのチャレンジで多くの不安がありました。リース艇の事に、エスコート船、Molokaiに渡ってからの事、そして何より今まで経験していない海へ挑むこと。全てにおいて多くの人の協力なくしては、完漕は出来なかったでしょう。

レース当日、緊張と不安と興奮とが入れ混ざった状態でした。

「本当に自分が挑めるのだろうか？」

「最後まで漕ぎきることが出来るのだろうか？」

しかし、ここまで来たのに、いまさら辞めることなんて、出来ないし、したくなかった。

絶対にゴールしてみせると心に決めて、レースに挑みました。

スタートラインに並ぶまで、多くの艇とエスコート船を目の前にして、圧倒されつつも、

ワクワクする気持ちも湧いてきて、なんともいえない感覚でした。

フライングスタートがあったおかげで、ちょっとリラックスしたかもしれません。

それにしても、世界の選手は速かった。

スタートしてあっという間においていかれましたね。

しかし、今回の目標は時間ではなく、何よりも完漕することだったので、自分のペースを崩さないことに、重点を置いて漕ぎ始めました。

澄みきった青い海と暖かい風、柔らかい水色の空。

背中から受ける風とうねりに押し出されるように漕いでいました。

日本では得ることの出来ない感覚を何度も味わいました。この大会でないと味わえない経験だと…。本当に最高でした!

中盤から後半にかけてスタミナが切れてしまい、うねりに乗り続けることもままならず、漕ぐ手を何度も止めてしまいましたが、リタイヤすることだけはしたくなかった。

多くの仲間が私をサポートしてくれて、日本で応援してくれている、そして、ゴールで待っていてくれる仲間が居る。そんな仲間の気持ちを無駄にしたくなかった。そして、そう思うと、重いからだがまた漕ぎ出す…。

辛くなればなるほど、仲間や家族、協力してくれている人々の顔が脳裏に浮かんだ。

こんな経験今までしたことなかった。

32 マイルを 7 時間 2 分 28 秒。

今まで一番長く漕いだ距離と時間でした。

この間、深く考え、今まで経験しなかった事を沢山経験させてもらえた。

この感動を日本に居る仲間やこれから Molokai に挑みたいという仲間に少しでも伝えるこ

とが出来ればと思う。

そう簡単にチャレンジできることではないけれど、より多くのパドラーにはチャレンジしてもらいたい。

タイムや順位も重要だけど、この Molokai の海や風を感じて、完漕することの楽しさを味わってほしいです。

今は、「また来年参加する!」と言えませんが、きっといつの日か、もっとトレーニングして、もっと楽しめるように準備して、あの海に帰りたと思っています。